

今日のトピック ブラジルの金融政策：年金改革進展で追加緩和示唆（2019年7月） 政策金利6%に利下げ、年金改革の進展で緩和余地

ポイント1 0.5%の利下げ 利下げは市場の予想通り

- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、7月31日の金融政策委員会で、政策金利を0.5%引き下げ、6%とすることを全会一致で決定しました。利下げは2018年3月以来となります。

ポイント2 年金改革進展で金融緩和の余地生まれる

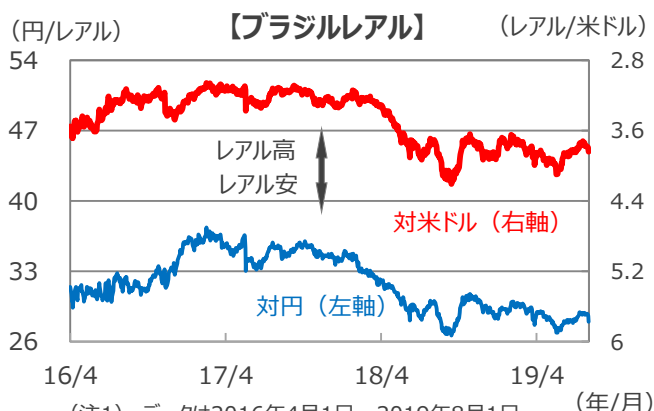
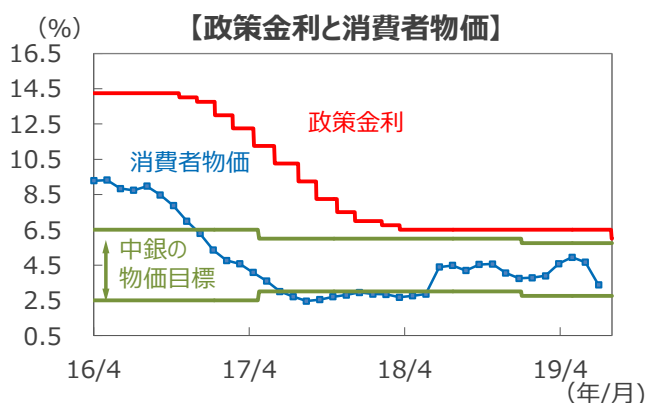
- ボルソナロ政権の最重要政策である年金改革法案は、下院での一回目の投票を圧倒的多数の賛成票で通過し、法案成立の最終ステージに入ってきました。
- 年金改革による財政健全化に一定のめどがたったことから、景気支援のために金融緩和を行う余地が生まれたとみられます。
- 中銀の声明では、今後の金融政策は経済状況やインフレ動向などによるとしており、インフレが落ち着いて推移すれば、更なる利下げを行う可能性があるとして述べています。

今後の展開 ブラジルレアルは底堅く推移 景気刺激策と金融緩和の効果期待

- 7月に入りボルソナロ政権は、景気刺激策として退職金基金からの引き出しを認める方針を打ち出しました。これによって個人消費が下支えられることが期待されます。また、年金改革法案は休会が明けた8月以降、下院で2回目の投票に入るとみられています。財政改善効果は10年間で9,000億レアル超になるとみられます。これは2018年の名目GDPのおよそ14%にあたり、ブラジルにとって明るいニュースです。
- ブラジルレアルは米国の金融政策動向など外部環境に左右される展開が見込まれます。今後、利下げの可能性はありますが、年金改革法案の進展や利下げをしても相対的に高い金利が引き続き評価され、ブラジルレアルを支えると考えます。

ここも
チェック!

2019年7月31日 ブラジルマーケット ウィークリー
2019年7月22日 ブラジルの『年金改革』法案は最終ステージへ



■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。